道 徳 指 導 計 画 案

日　時　　平成１８（２００６）年１１月1日（水）
１３：３０～１４：２０

生　徒　　余市町立旭中学校　第２学年Ｂ組　生徒３２名

指導者　　余市町立旭中学校　教諭　佐川　聖明

１．主題

真の友情　　２－（３）

２．資料

「約束」　（旭川教育大学附属中学校編を改編）

３．主題観

われわれは、人と人とのふれあいの中で生活をしている。そのため、自分の都合だけでではなく、周囲に目を配り相手の立場に立って物事を考えることが必要である。中学生の時期は、互いに心を許しあえる友人を真剣に求めるようになり、親や教師に多くのことをゆだねてきた児童期から脱し、独立しようとする発達段階にある。

さて、本校の二年生は小学校時代から「仲の良い学年」といわれ、学級を問わず交流している場面が目立つ。しかし、その現状は、単に気の合うと言った表面的な仲間意識に終始しがちで、本当の意味で友情とは何かといったことを思考するには至っていない。

ここでは、普段の生活を一人一人が振り返り、友達との交流を通し、相手のことを考える大切さに気づかせ，仲良く助け合っていこうとする心情を育てたい。

３．資料観

資料「約束」は、主人公が友人に約束を破られた状況にあってどう対処すべきか、という日常起こりうることを題材に、友人関係について考察させる教材である。

４．指導観

狭い範囲での仲間意識や同情、友情を育んでいる生徒が少なくない。そこで、生徒に道徳的な葛藤を通し、相手に対する真の思いやりを多角的に考察させ、道徳的判断力を養い、そこから「心豊かな生徒の育成」を図っていきたい。

５．本時の目標

友達とのつきあい方を自分の問題として考え、プリントへの記入や意見交流を通して、友情についての意識や価値観を深めることができる。

６．本時の計画

	子供たちの思考・活動	教師の支援・発問	備考
つ か む ７分	○アンケートの結果（Ｐ３参照）　を振り返る ・自分の大切なものに「友人」　が多いことを知る ○気の合う仲間、一緒にいて楽しい	どういう人を友人と呼ぶ	
	友人関係について考えてみよう		
考 え る	「約束」の前半を読んでみよう		
	○怒る－許せない 約束を破るなんてひどい奴だ。連絡くらいしてくれ。 ○許す－心配する 何かあったんだ。ただ、約束を破るとは思えない。	自分の立場で考えさせる あなたはこのあと、どのような行動をとりますか ・違う意見の生徒同士を交流させる。	・輝弘、咲紀　の視点で読んでみる。 ・理由をつけ　て話し合う （視点２） ・生徒の反応　に意見を引き出し、葛藤させるようにする
	「約束」の後半を読んでみよう		
28分	○やっぱり許せない ○許せる	あなたは治を許しますか	（視点２）
深 め る	本当に相手について考えることのできる友人について考える	教師説話 「人は信じようとするところに価値が生まれる」	（視点３）
	今日の授業を振り返り、自分にとっての友人の存在は何か記入する		
15分	○友人の立場を考えることは大切なんだ。 ○信頼しあえる仲間になりたい。	書いたものを読み上げる。	画一的な終わりにならないように留意する。

＜参考文献＞

新中学校教育課程講座　道徳　七條正典／横山利弘編著　株式会社ぎょうせい

調査研究課題　道徳の研究　　胆振教育研究所編

７．評価

〇「約束」を通じて、友達とのつきあい方を自分の問題として考えることができた。

〇プリントへの記入や意見交流を通して、友情についての価値観を深めることができた。

８．板書計画

＜友人関係について考えてみよう＞

あなたにとっての友人とは
- ・気の合う仲間
- ・一緒にいて楽しい

〇どういった行動を取るか

怒る：許せない
連絡くらいして

心配する
何かあったのでは？

〇友人の存在とは
- ・信頼できる
- ・安心できる

●研究の視点１～　子どもの問題意識を誘発し、学習に対する意欲を高める教材との出会いや単元構成の工夫

〇友人という身近な存在を身近な事例を通し、その存在価値について考察する

●研究の視点２～　一人一人を大切にし、子どもの学びをより主体的なものに高める学習過程や教師の支援の工夫

〇資料を二段階に分けて提示

〇学習シートを活用し、個々が考える時間を保障したうえで、グループ討議を行う

●研究の視点３～　一人一人の良さや可能性を共感的、継続的にとらえ、次の学習や生活に生かす評価の工夫

〇学習シートに自分の学びを振り返り、道徳的実践力を身につける

アンケート結果

家族	２７					
友人	２４					
金	１０	携帯	3			
自分	2	ゲーム	2	命２		車２
思い出	1	音楽	1	マンガ	1	
本	1	自動車	1	家	1	
野球	1	犬	1	ピアノ	1	いとこ１

授業を振り返っての成果（○）と課題（●）

研究の視点１～　子どもの問題意識を誘発し、学習に対する意欲を高める教材との出会いや単元構成の工夫

○友人という身近な存在を身近な事例を通し、その存在価値について考察したため、生徒の関心を高めるのに有効であった。
●前後半に題材を分割したが、登場人物の「お金を返してもらうんだ」という台詞で区切ってしまったため、自分の意見をもとにした意見交流の際も金銭の話に終始してしまう生徒が多かった。そのため、本来、交流を深めて欲しいところが深まらなかった。

研究の視点２～　一人一人を大切にし、子どもの学びをより主体的なものに高める学習過程や教師の支援の工夫

○学習シートに記入する時間を確保したため、自分の意見をしっかりと持たせることができた。そのため、その後の意見交流では多くの班で活発に意見交流を展開することができた。
●教師が中心となって授業を進めてしまったため、面白みのない授業展開となってしまった。もう少し生徒に任せ、個々の自由な発想を促した方が良かった。

研究の視点３～　一人一人の良さや可能性を共感的、継続的にとらえ、次の学習や生活に生かす評価の工夫

○学習シートに自分の学びを振り返ることにより人前で言うことのできない自分の思いの変容をとらえ、今後、望ましい友人関係を築いていこうという意識を育むことができた。
●この時間だけで終わらせるのではなく、今後あらゆる機会を設け、実践力についての見取りをしていく必要がある。

（資料）　「約　束」

ここは昼休みの教室。

「今度の日曜日、みんなで遊びに行こうよ。」

テストが終わった最初の日曜日、二人はこの治の誘いにすぐさま反応した。

「それじゃ、今、評判のスッパマンを観に行こうよ。でも、この映画は人気があるから、かなり混んでいるらしいんだ。早めに行かなきゃ、良い席は取れないぞ。」映画好きの輝弘は、張り切って返事をした。

「そんなに評判なら、ぜひ行きたいわね。」と咲紀。

「それじゃ、決まり。少し安くなるから、俺が前売り券を買っておくね。お金は当日集めるから。」輝弘が話をまとめた。

日曜日。輝弘と咲紀の二人は、時間通りに映画館前に集まった。噂どおり、映画館前には長蛇の列ができていた。

「おお、すげぇ。早く並ぼうよ。」二人は列に加わり、治の到着を待った。

しかし、時間が過ぎても治は姿を現さなかった。

「何だ、治はまだ来ないのか！？」

「いつも映画となると、人より早く来ているのにねぇ。」

「遅いなぁ、早くしないと開いちゃうぞ！」イライラしながら、輝弘は言った。

「ちょっと待って、今メールしてみるわ。」と咲紀がメールしてから、数分。いっこうに返事は戻ってこない。

「あいつ、俺らの約束を忘れているんじゃないか。」

「まさか。そんなことをするはずないんじゃない。今、向かっている最中よ。」

「しゃあないなぁ。開場だから、中に入ってよ！」

「でも、こんなに人がいたんじゃ、治が来てもわからないわ。一緒じゃないとつまらないから、私、外で待っているわ。中は携帯もつながらないし…。」と咲紀は列を抜け出した。

「待てよ。俺も行くよ。」輝弘も列を抜け、しぶしぶ咲紀の後をついて行った。

しばらく時間が経過しても治は来なかった。

「あいつ、何だよ！ぎりぎりまで待ってたのに、おかげで見にくい席になったんじゃないか！おまけに、金を立て替えているんだよなぁ」

輝弘は来なかった治のことより、お金のことで頭がいっぱいになっているらしい。

咲紀はなぜ、治が来なかったのか心配になった。

「ねぇ、治の家に行ってみない？」咲紀は思いきって提案した。

「なんで、わざわざ家まで行かなきゃいけなんだよ。」怒り心頭の輝弘だが、「金はしっかり返してもらわなきゃな。今日中に返してもらわないと困るんだ。」

あなたは、このあとどのような行動をとりますか

二人は治の家に出向くことにした。

ピンポ～ン　「はぁい」。

「なんだ、治くんいるじゃないの」
ばつの悪そうに治が顔を出した。
「どうしたの、心配したわよ」と咲紀。
「ごめん、迷子の子供がいて。迷子センターに連れて行ったのだけど、親が引き取りになかなか来ないから心配になって一緒にいたんだ。で、携帯忘れちゃって…。本当にごめん。後からでも、メールの返事を返せば済んだんだけど。」治はひたすら謝った。

「治、大変だったのね。でも、連絡くらいは欲しかったな」と咲紀がほっとしたように
言った。

「治、また、映画観に行かないか。今度はおまえのおごりでな。だって、今回のチケット代、俺が払ったんだから。」輝弘がいたずらっぽい笑顔で言った。

治のことを　**許せる**（○）　許せない

後で返事をくれなかったのは、待ってる方の身になったらイヤだけど
治は悪い事をしたわけじゃなくて、いい事をしたんだし事故とかに
合ったわけでもないので安心して許す事ができる。

治のことを　**許せる**（○）　許せない

治は、迷子の子を迷子センターに連れていったことは、
いい事だから映画観に行けなかったのは、しょうがない
と思う。
でも、私が輝弘や咲紀だったら家に帰った時にケータイで
いけなかった理由を言ってほしかったなあ。
でも、許せる。

〜自分にとっての友人の存在は・・・・〜

自分だけが、一方的に友達の事を思うんじゃなくて相手も 自分の事を同じくらい思ってくれるような 関係がいいと思う。自分にとって いなくてはならない存在の一つで、たくさんあるのだけれど、その中の 一つが なかったら、今の自分ではないと思うし、友達は体の一部のような物だと思う。

● 友達とは、かけがえのない存在で、自分と合う合わないよりも、一緒にいて楽しい、この人ならなんでも言えるとか、そんな人を本当の友達と言えると思う。だから私はこの先、この様な友達関係を、楽していきたいと思う。そして、その友達をずっと大切にしていきたい。

自分にとっての友人の存在は?

友人はいなくちゃならないかけがえない人だと思う。家族や先生に言えないことなどなんでも話せて相談しやすい人だと思う。自分にとって友人は本当に本当に大切で、色々なことを一緒にわかち合える仲間だと思う。悲しい時も楽しい時も何があっても支えてくれる大好きな人。